

平成 30 年度愛知県アレルギー疾患医療拠点病院実績報告書

病院名：藤田医科大学ばんだね病院

愛知県アレルギー疾患医療拠点病院設置要綱に基づき、下記のとおり報告します。

1. 病院の機能及び医師等の配置（令和元年5月1日現在）

項目	該当
一般社団法人日本アレルギー学会の認定教育施設であること	○
内科、小児科、皮膚科、眼科、耳鼻いんこう科領域の診療科が全て設置され、その医師が常勤していること、または、愛知県における小児アレルギー疾患医療の中心的な役割を担っていること	○
アレルギー疾患に関する専門的な知識と技能を有する薬剤師、看護師、管理栄養士等が配置されていること	○
〔配置状況〕	
小児アレルギーエデュケーター 3名	

医師の配置	アレルギー学会会員数	うち専門医数	うち指導医数
内科	16	4	1
小児科	7	6	1
皮膚科	1	1	0
眼科	1	0	0
耳鼻いんこう科	1	0	0
総合アレルギー科	4	4	3

2. アレルギー疾患に関する「情報提供」「人材育成」「学校、児童福祉施設等におけるアレルギー疾患対応への助言、指導」の取組

	実績（平成30年度）			今後の予定（令和元年度）			
	診療科	対象者	内容	診療科	対象者	内容	
情報提供	講演会等	小児科	一般市民	アレルギー大学（年3回） エピペン指導2回 気管支喘息1回	センター	一般市民	メールでの相談窓口設置
		小児科	一般市民	名古屋市ぜん息キャンプ（30名）年2回	小児科	一般市民	名古屋市ぜん息キャンプ（30名）年2回
		内科	一般市民	アレルギー講演会（年3回）気管支喘息	小児科	一般市民	アレルギー大学（年2回）
		複数科	一般市民	おうちでできるアレルギー疾患のグッドな対策	内科	一般市民	アレルギー講演会（年3回）
		眼科	教職員	眼のアレルギー疾患	総合アレルギー科	一般市民	患者会（豊橋アレルギーっ子の会）講演会
		眼科	医師	総合アレルギーセンター眼科として診る前眼部のアレルギー疾患			
	総合アレルギー科	一般市民	日常生活に潜むアレルギーについて				
他	センター	一般住民	子どもワクワクお仕事体験（14組37名）	センター	一般住民	子どもワクワクお仕事体験（年2回）	
人材育成	研修会等	センター	医療従事者	アレルギー勉強会（年4回 各40名程度）	センター	医療従事者	アレルギー勉強会（年4回 各40名程度）
		センター	医療従事者	愛知アレルギー実践セミナー	センター	医療従事者	愛知アレルギー実践セミナー
		センター	看護師	アレルギーケア看護師育成プログラム （ベーシックコース・アドバンスコース）	センター	看護師	アレルギーケア看護師育成プログラム （ベーシックコース・アドバンスコース・マスターコース追加）
		小児科	教育関係者	エピペン講習会（年45回）	小児科	教育関係者	エピペン講習会（年35回予定）
		小児科	医師	アレルギー研修会 食物アレルギー9回・基礎4回・アトピー性皮膚炎1回 気管支喘息1回	小児科	医師	アレルギー研修会（年5回予定） 食物アレルギー2回、気管支喘息1回、基礎1回、アトピー性皮膚炎1回
		内科	医師	アレルギー研修会（年11回） 喘息・吸入指導等	小児科	医療従事者	アレルギー研修会2回 食物アレルギー

	内科	医師・薬剤師	アレルギー研修会（年3回） 喘息・吸入指導等	内科	医師	アレルギー研修会（年9回）	
	眼科	教職員	カラーコンタクトレンズによる角膜障害	内科	医療従事者	アレルギー研修会（年7回） 医師・薬剤師向け：3回、保健師向け：2回、薬剤師向け：2回	
	総合アレルギー科	医師	アレルギー研修会 （皮膚アレルギー、アトピー性皮膚炎 年8回）	総合アレルギー科	医師	アレルギー研修会 1回	
	総合アレルギー科	医療従事者	アレルギー研修会（皮膚アレルギー、アトピー性皮膚炎） 薬剤師1回、保健師1回、医療従事者1回	総合アレルギー科	医療従事者 （主に看護師）	アレルギー研修会 1回	
	他				センター	医療従事者	藤田医科大学アレルギー疾患トレーニングコースの開設
					センター	医療従事者	ガイドラインの内容をわかりやすく解説した動画を作製し、ウェブサイトに載せる。
助言 指導	内科	県	名古屋市公害認定審査会の委員	内科	県	名古屋市公害認定審査会の委員	
	小児科	保健所	アレルギー相談会で相談対応 （中川保健所：4ヶ月に1回 南保健所：月に1回）	内科	名古屋市役所	アレルギー相談会にて吸入指導	
				小児科	保健所	アレルギー相談会で相談対応 （南保健所：4ヶ月に1回 中川・中村保健所：月に1回）	

3. アレルギー疾患における「診療」「研究」の取組

	実績（平成30年度）	今後の予定（令和元年度）
診療	<ul style="list-style-type: none"> 重症患者に対する免疫療法、負荷試験、生物学的製剤を用いた治療の実施 食物負荷試験：2,070件、皮膚テスト（プリックテスト：324件、パッチテスト：314件） 肺機能検査：1,614件 呼吸抵抗測定 1,200件 呼気ガス試験 488件 難症例に対する6診療科医師による合同診療を開催（週1回） 	<ul style="list-style-type: none"> セカンドオピニオン外来の開設 アレルギー疾患連携パスを作成
研究	<ul style="list-style-type: none"> 新規検査薬や治療薬、治療方法の開発に向け、合同研究委員会を開催（月1回） 重症魚アレルギー患者の新規治療法の開発のための特定臨床研究を開始（小児科） 「乳児アトピー性皮膚炎への早期介入による食物アレルギー発症予防研究/他施設共同評価者盲検ランダム化介入並行群間比較試験」AMED（国立研究開発法人日本医療研究開発機構）で共同研究を行っている（小児科） 基盤研究(A)アレルギー欠失・低減 化ソバ育成を目指した食品化学・臨床医学・育種学融合研究(H28～H31)の分担研究 食物アレルギーひやりはっと事例の収集および食物アレルギーひやりはっと事例集の刊行（毎年） 加工食品のアレルゲン含有量早見表の刊行（毎年） 	

4. アレルギー疾患に関する特記事項（独自の取り組み）

今後取り組み予定

- ・ガイドラインに基づいた診療を学ぶ場として、藤田医科大学アレルギー疾患トレーニングコースを開設予定（2週間）
- ・アレルギー疾患連携パスを作成
- ・セカンドオピニオン外来の開設
- ・ばんたね病院作成アレルギー疾患の e-learning としてウェブサイトに掲載。
- ・ガイドラインの内容をわかりやすく解説した動画を作製し、ウェブサイトに掲載。
- ・医療者向けメールマガジン（仮）を配信
- ・メールでの相談窓口を設置予定、相談内容の Q&A 集作成